

# 名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2025 年 3 月 25 日

学部・学科名 外国語学部・フランス語学科

担当教員氏名 木内 堯

|             |                                                                                                                                                       |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 区分       | 中期留学 ・ 語学研修 ・ 海外実習                                                                                                                                    |
| 2. プログラム名称  | 春期フランス研修                                                                                                                                              |
| 3. 渡航先国名    | フランス共和国                                                                                                                                               |
| 4. 派遣期間     | 2025 年 2 月 6 日 (木) ~<br>2025 年 3 月 11 日 (火) 34 日間                                                                                                     |
| 5. 派遣先教育機関名 | アンジェ西部カトリック大学                                                                                                                                         |
| 6. 参加学生数    | 36 名                                                                                                                                                  |
| 7. 派遣目的     | フランス語の語学力の向上とフランス語圏文化へのより深い理解を目的とする。研修先においては、語学・文化に関する学習および実地研修を行う。また、市内及びロワール地方へのエクスカーションによりフランスの歴史・文化への理解を深める。                                      |
| 8. 派遣内容     | フランス語学科の 1、2、3、4 年生を対象にフランスの大学で 4 週間のフランス語プログラムを実施した。4 週間の授業と文化研修からなるすべてネイティブ講師によるフランス語研修プログラムであり、海外研修として 4 単位に相当する。                                  |
| 9. 成果       | 最終週に試験が実施され、参加者全員が合格となった。また、授業及びホームステイを通じて、4 週間に渡ってフランス語の環境に身を置いたことで、特に会話や聞き取りを中心に、フランス語力を飛躍的に向上させることができた。帰国後に実施したアンケートでは、長期留学への意欲が増したといった感想も数多く見られた。 |
| 10. 備考      |                                                                                                                                                       |

以上

## 2024 年度 春期フランス研修レポート

提出者：東海凜太郎

所 属：フランス語学科 1 年次

### 1, この研修で得たこと、学んだこと

#### 1-1 大学での学び

大学では、文法、リスニング、会話の授業と分かれており各授業で 5 人から 10 人ほどの小クラスで行われました。先生はフランスのネイティブの先生で 1 時間の授業を通して、すべてオールフランス語で行われます。授業を始める前は正直不安があり、フランス語を聞き取れるかどうか不安でした。しかし、先生は聞き取りやすいようにとてもゆっくり話してくださり、一人ひとりに理解できているか確認しながら授業を進めてくれました。もしわからない単語や内容があれば簡単なフランス語で言い換えてくれたり、ジェスチャー、画像を使ってくれたりしました。どの授業も少人数で行われるので、積極的に自分から発言して能動的に受講することが出来ました。日本での一年生の授業では主にインプットが中心ですが、この大学の授業は 9 割がアウトプットなので今まで習った知識を総復習するような形で応用することができました。フランスに来る前と比べて、特にスピーキングとリスニングの能力に成長が感じられ、これは常に授業がフランス語で行われ、積極的に発言していくことができる環境であったからだと思います。

#### 1-2 ホームステイでの学び

ホームステイをする前、私はとても緊張をしていました。しかし、実際にホームステイ先の家族の方にお会いしてみるととても優しく、聞き取れなかった際にはもう一度ゆっくり話してくれ、時には英語を用いて説明をしてくれました。ホームステイで一番印象に残ったことは、パーティーに参加したことです。僕の家族では一週間に一回程度の頻度で家にたくさんの人が来たり、パーティー会場に行ったりしてたくさんのフランス人と話す機会がありました。そこではフランス語を話しながら、お互いの経歴であったり、思い出であったりを話すことができ、フランス人の価値観や考え方を知ることができました。ずっと今まで自分の中で縛られていたある種の固定概念のようなものがほどけたような気がして、とても楽しかったし、印象に残っている出来事です。

#### 1-3 エクスカーションでの学び

エクスカーションでは、パリやモンサンミッシェル、ロワール城、ヴェルサイユ宮殿に行きました。今までにインターネットや教科書で見たことのある有名なスポットでしたが、実際に行って生でみると迫力が全く異なり感動させられます。ただ見るだけではなく、その地の気候や治安、歴史や文化を学ぶことができました。特に、モンサンミッシェルやシャンボール城の周辺は自分が思っていたよりも田舎で、見渡す限り森や畑があるだけでした。自分が想像していたものと異なった場合にはとても面白いですし、興味が湧きます。「百聞は一見に如かず」というのは本当のことだと思います。

## 2, この研修全体を通して自分に与えた影響

### 2-1 人と人との関わり

私はこの研修に参加する前は一人の時間が好きで、人とかかわることがあまり好きではありませんでした。一人でいたほうが楽であると感じていたからです。しかし、この研修での様々な経験を通してこの考え方が変わりました。それは、**人と人とが関わることで得られることがある**ということが分かりました。研修中にたくさんの人と初対面で話をしました。最初は緊張して、早く終わりたいというふうに思っていました。が、だんだん話していくうちにお互いの共通点が見えてきて話が盛り上がっていきました。また、自分の知らなかったことを知れ、相手の近況を知ることが出来ました。そのつながりで他にもいろいろな人を紹介してもらったりもしました。そこでつながった仲間とは、研修中に住んでいた Angers という町で一緒に遊んだり、カフェに行ったりし、日本に帰国した今でも連絡を取り合っています。人と話し、関わることで自分の中で凝り固まった考え方を変化させることができます。価値観を知ることができたり、経験を知ることができた先には、今までになかった新しい自分を知ることができて、自分を成長させてくれることを学びました。このようなことを改めて感じることはできたのは、フランス研修でそのような環境に身置くことができた結果です。

### 2-2 「挑戦」すること

まだ一年間しかフランス語を学んでおらず、日常会話もままならない僕がいきなりフランスに飛び込んでいくことは無茶だと考えていました。恥ずかしいことではありますが、数字もまだあやふやな状態でした。しかし、研修に申し込み、決して安くはない研修費を出すのであれば、とことんやっていきたいと思っていました。日常生活では自分の知っている知識を最大限に活用しながら会話をし、できなかったことがあれば自分で調べて会話を進めていこうと試みました。ホストファミリーの方とも今日の出来事などを自分から積極的に毎日会話をしました。そして研修が終わるころまでには、話の内容の6割(これが良いのか悪いのかについては置いておくが)は聞き取れるようになり、自分からもリアクションや意見を言うことが出来るようになりました。もちろん、言いたいことをいうことができないなどの挫折やストレス、失敗は毎回のようにあります。しかし、逆にその気分を味わうことが素晴らしいというふうに感じるようになりました。なぜかという、その時点で「挑戦」をしているということだからです。「挑戦」をしているからこそ、得られるものがたくさんあって、自分を成長させてくれます。どんなことでも最初は緊張し不安な気持ちになりますが、「挑戦」した先には必ずいいことがあって、**新しい気づきや目標が生まれます**。そのことを気づかせてくれたのがこの研修でした。

## 3, これからの生活や将来にどのように活かしていけるか

### 3-1 物事はすべて自分次第だ

この研修を通してこれからの生活を大切にしていけることが大切であると感じました。研修に行く前は正直あまり勉強に励むことができずに一年間のフランス語の学習が100%の出来ではありませんでした。とりあえず授業を受けていただけの感覚でした。しかし、今回の研修に挑戦

をして、今からでも遅くはないということを実感し、これからの自分のフランス語に対する伸びは自分次第であると理解しました。他者がモチベーションをあげてくれるものでもなく、タスクを渡されるようなものでもありません。**これからの自分は自分で決めるし、自分次第であると。**それを気づかせてくれたのはこの研修です。最初は何もフランス語を話せなかったところから、一か月でいろいろなことを経験していくうちにある程度までスキルを向上させることができました。また、フランスのことについてあらゆる面から知ることができ、もっと知りたいと思うようになりました。自分の興味のあるものに積極的に挑戦し、新しい世界に踏み入り、目の前のことに全身全霊で取り組む。これこそがこの研修で学んだ一番の教訓です。このことを忘れずに大学での日々を大切にしていきたいと思います。

## 2024 年度 春期フランス研修レポート

提出者：杉本 愛笑

所 属：フランス語学科 1 年次

“フランス生活を楽しむ、ホストファミリーとのコミュニケーションをたくさんとる、翻訳機はなるべく使わない…”これらは私が研修に参加する前に立てた目標の一部です。1 年前の私には、フランスに行くことを想像することはできませんでした。この経験は誰もができるわけではなく、両親をはじめとたくさんの方の協力があってできることなので、研修中は多くのことを学び、吸収したいという気持ちで臨みました。

パリではどこを見ても美しく、まるで街全体が美術館のように感じるほど美しい光景が広がっており、圧倒されてばかりでした。フランスの街並みは、ディズニーリゾートやユニバーサルスタジオジャパンの中を歩いているかのようで常にわくわくしていました。ルーブル美術館のモナリザや、エッフェル塔、パリオリンピックで話題になったセヌ川など、今までは教科書やテレビなどでしか見たことのなかったものを実際に目にすることで、本当にフランスに来たのだと実感が沸き毎回感動していました。

アンジェでの生活はとても充実したものでした。大学では、想像していたよりも授業が多くありましたが、フランス語のみでの授業は新鮮で楽しく、1 時間の授業はあっという間に過ぎていきました。先生方は私たちがきちんと理解できるようにはっきり、ゆっくり話してくれたり、簡単な単語に言い換えたり画像を使って説明してくれたりしていました。しかし、それでも理解できないことは多々あり、そのたびに悔しさを感じました。意味の分からなかった単語はすぐにメモを取り、前後の単語や文脈から意味を予測したり、休憩時間や家に帰ってから調べたりして、次は理解できるようにと準備していました。このようなことを繰り返していくうちに、授業が始まった頃に比べてだんだんと授業内容が理解できるようになり、フランス語の向上を実感できとても嬉しくなりました。単語が何か分からなくてもとりあえず聞こえた音を発音してみることや、イラストを使いながら単語を学習するということを授業の中で行いました。そして、この勉強法がすごく私には合っていて覚えやすいと感じました。ただ座って先生の話聞きメモを取るという授業ではなく、たくさん会話をしたり考えを共有したり、歌を聞いたり歌ったりする授業が多かったのでとても楽しく学ぶことができました。

アンジェ滞在中は晴れて暖かい日が多かったので、放課後はアンジェの街を歩いてショッピングをしたりカフェに寄ったり、パン屋さんを巡ったりして楽しみました。アンジェはとても親切な人が多く治安もよかったため、安心して一人で歩くことができました。

休日にはナント、サンマロ、モンサンミッシェル、ロワール古城の観光に行き、文化や歴史を十分に味わうことができました。個人で行くには少し遠く、また治安も心配でしたが、

エクスカッションとして取り入れてくださったおかげで安心して楽しく観光することができました。

ホストファミリーは私たちが来ることをとても歓迎してくれ、また温かく迎え入れてくれました。研修前からメールで連絡を取り合い、心配なことなどを伝えると優しい言葉をかけてくれたり解決策を考えてくれたりしたので、私の不安は減っていきました。ホームステイが始まった日からとても気さくに話しかけてくれたため、すぐに打ち解けることができました。ホストファザーが元シェフだったこともあり、毎日とてもおいしいフランスの伝統料理を振る舞ってくれました。そのため、私は知らず知らずのうちに、毎食限界まで食べ続けていました。また、デザートにシュークリームやタルトなどを作ってくれて、タルトは贅沢に4分の1を、ピザを食べるかのように手で豪快に食べさせてくれました。どの料理も本当においしく、ホームステイ中の私の口癖は C'est très bon！でした。晩御飯が始まってから私が部屋に戻るのは大体2時間後です。フランスは食事の時間を大切にする国だと実感しました。ご飯を食べ終わるとホストマザーのマシングントークが始まります。最初のうちはフランスでの生活に慣れておらず、疲れがあったり、話す速さについていくことができなかったりして、何を話しているのかほとんど理解できず、翻訳機を使って話してばかりでした。しかし、数週間過ごしていくうちに速さに慣れ、何を話しているのか理解できるようになっていきました。分からない単語があった時は「これはどういう意味？」と聞くと小さい黒板を使って説明してくれてしっかり分かるようになりました。始めは少し大変だなと感じていたこの時間も、時間が経つにつれて楽しい時間へと変わっていきました。ホストファミリーは、私が話そうとすると静かに聞いてくれて、私の文法がめちゃくちゃなフランス語でも、私が何を伝えようとしているのか一生懸命考えてくれたり理解してくれたりしました。そのため、私も臆することなく伝えたいことをとりあえず口にして伝えることができました。毎日このようにコミュニケーションをとっていたため、自分から積極的に話そうとする力がついたと実感しています。ホームステイ最後の日の夜に、みんなでボードゲームをして笑いあった時間はとても素敵な時間で忘れられません。

私はこれまで海外に行った経験はなく、今回の研修が初めての海外だったため、長時間のフライトや海外での生活に少し不安がありました。しかし、たくさんの優しくユニークな友達や引率をしてくださっていた先生方に支えてもらったため、私の34日間のフランス研修は毎日とても充実しており、刺激的で楽しいものになりました。研修前に立てたほとんどの目標を達成することができ、貴重な経験ができたと感じています。この研修に参加することができてよかったと心から思っています。快く研修に送り出してくれた両親に感謝です。この貴重な経験を無駄にしないように、これからも学ぶことを楽しみながらスキルアップを目指します。